

メッセージアウトライン

ローマ13：11～14「主イエス・キリストを着る」

[11]「あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです」

ここで使われている「時 (カイロス)」という言葉は「特別な時」とか「時代」という意味があり、イエス・キリストが十字架により人間の罪の贖いを成し遂げて天に帰られて後、今度は世の裁き主として来ようとしておられる終末的な時代を意味している。それは人類の歴史の終わりの時であり、今まで地上で生きてきたすべての人間が神の裁きの御座に立たされる時である。→マタイ16:27「このように行いなさい」の内容は12節以下。パウロは靈的な眠り、停滞に落ち込んでいたローマのクリスチャンたちに、「あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています…」と警告しつつ、信仰者としての自覚をもって今の時代を生きるべきことを勧める。

[12]「夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、闇のわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか」

不信仰、不道德、混乱、不法、無秩序や、あらゆる悪が増大し、世の中はますます暗くなっていくように見える。しかし、それはイエス・キリストの再臨というすばらしい夜明けが近づいてきていることでもある。それゆえ、信仰者は闇のわざを打ち捨て、光の武具をつけるべきことが勧められる。「光の武具」とは暗黒の罪の力と戦うための靈的武具のこと。→エペソ6：13~18

[13]「遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか」

ここに描かれている6つの要素は当時のギリシヤ・ローマ世界では普通のことであった。しかし、これは当時のことだけではなく、いつの時代でも当てはまることである。それゆえ信仰者はいつ裁き主の前に立ってもよいように、昼間らしい正しい生き方をしなければならない。

[14]「主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません」

ここで「着る」ということばはキリストとの靈的結合を表わすことばとして使われている。→ガラテヤ3:27 信仰者は死んでよみがえられたキリストと靈的、生命的、有機的に結合することによって新しく生きる者とされ、古い自我と罪の生活に打ち勝つ力が与えられる。「主イエス・キリストを着る」というこのことばほど、キリストにあって生きる者の姿を端的に表しているものはない。そしてそのように生きる者は肉の欲に心を用いてはいけないということも当然のことである。信仰者は主イエス・キリストの再臨の時がいつ来てもよいように心を整え、身を慎みつつ、暗やみのわざを打ち捨てて、信仰生活に励む者とならなければならない。